

# みどりの東北

MIDORI NO TOHOKU

Vol.  
**167**  
東北森林管理局



## 特集

今年度の活動を振り返って

「津軽自神森林生態系保全センター」  
「藤里森林生態系保全センター」

## CONTENTS

### ■美しい森林づくり

「一貫作業システム現地勉強会」

～無地拵の事業地でコンテナ苗植付けを体験～

..... [宮城北部森林管理署]

### ■我が署の名所

佐比内鉄鉱山遺跡..... [岩手南部森林管理署遠野支署]

西吾妻山山頂より望む飯豊連峰  
(東北森林管理局登山同好会提供)

# 特集

Special Feature Article

## 今年度の活動を振り返って 津軽白神森林生態系保全センター

当センターは、青森県鮎ヶ沢町に所在し、白神山世界自然遺産地域（青森県側）やその周辺、岩木山、屏風山などをフィールドに森林生態系の保全や適切な利用の推進を図るため、巡視活動や自然再生活動、林業体験や森林教室などを通じた森林環境教育に取り組んでいます。

### ○白神山世界自然遺産地域の安全管理

遺産地域の自然環境を将来にわたり適正に保全・管理していくため、職員による巡視活動を実施しています。また、当センターが中心となって白神山世界遺産地域連絡会議の構成機関やボランティア巡視員、地元警察、消防署、漁協関係者と共に盗掘などの違法行為の防止や入山マナーの向上等を目的に昨年は7月29日（土）と9月5日（火）に合同



赤石川での巡視活動

パトロールを実施しました。合同パトロールの際は違反は確認できませんでしたが、環境省巡視員の巡視の際に違法行為が確認されており、今後とも、入山マナーの向上へのご理解とご協力をお願いいたします。

### ○中・大型哺乳類のモニタリング調査

白神山周辺でもニホンジカが目撃情報が増えており、植生などへの影響が懸念されております。雪解け後、順次センサーカメラを国有林野内に設置し監視を行っております。

5月25日（木）深浦町の国有林内にセンサーカメラを設置し、報道機関に公開しました。今年度は関係機関と調整し遺産地域周辺に130台（当センター担当分30台）設置しました。11月末頃までにニホンジカを含めた中・大型哺乳類のモニタリング調査を行いました。ニホンジカは、当センターで設置したカメラでは6箇所9回撮影されました。また、東北森林管理局の委託調査で遺産地域内に設置しているカメラに、核心地域と緩衝地域で1回づつ撮影されました。遺産地域内の核心地域で撮影されたため、白神山地科学委員会に報告し、今後の対応を検討して頂いております。



来年度についてもセンサーカメラによるモニタリングと生息情報の収集に努めると共に関係機関と連携の上、ニホンジカ対策を進めることとしています。白神山周辺地域でニホンジカを目撃された場合は、関係機関まで

お知らせ頂きますようお願いいたします。

### ○試行的なニホンジカ捕獲

平成28年の秋から試行的にニホンジカ捕獲用に簡易囲い罫を深浦町深浦山国有林に1台設置してあります。

世界遺産地域へのニホンジカの入域を排除するの考え方に立ち、今年度は春先から捕獲に取り組むこととしました。4月25日（火）に報道機関に公開し約1ヶ月間、捕獲に取り組みました。その後、9月中旬から12月末まで再稼働させました。今年度はICT技術（情報通信技術）を活用した罫で捕獲を実施しました。このシステムは、罫の中に大型の動物が入るとセンサーが反応し、自動的にゲートが降りる仕組みです。併せて檻の中に入った動物の写真が自動で職場のパソコンやスマートフォンに送信される仕組みです。



ICTを活用した簡易囲い罫



罫の周囲で撮影されたシカ

試行期間中、二ホンジカや他の動物が捕獲されることありませんでしたが、鹿の近くを歩くシカの写真が撮影されています。

### ○自然再生活動

自然再生活動は、白神山地世界遺産地域周辺のスギ人工林を将来、白神山地本来の植生である広葉樹林に戻すことを目的に実施しています。

これらは「白神山地周辺地域自然再生計画」（平成21年3月策定）に基づき活動しており、NPO等の多様な参加主体による百年単位の息の長い取り組みが行われております。

当センターでは自然再生活動に協力を頂ける一般ボランティアを公募し、7月22日（土）と9月16日（土）に実施する計画でしたが、1回目は低気圧の影響で津軽地方が豪雨になり中止とし、2回目は好天の中実施することが出来ました。



自然再生活動の様子

参加者には、植栽予定地の近隣の広葉樹林からブナやイタヤカエデの稚樹を採取し、スコップを使って植えて頂きました。  
その後は、ブナ巨木ふれあいの径を散策し、将来の白神山地の林相を堪能して頂きました。

### ○林業体験・森林教室

5月27日（土）に今年度第1回目の森林教室を深浦町と共催で開催しました。当日は雨模様の中の散策を懸念していましたが、その後天候が回復し親子



十二湖での森林教室

を含む25名の参加による新緑の十二湖を散策しました。

10月14日（土）に第2回目の森林教室を西目屋村と共催しました。好天の中、津軽峠周辺の「ブナ巨木ふれあいの径」のブナ巨木群に触れ、午後から「奥赤石ブナ遺産

源保護林」を散策しました。この保護林は、日本海型のブナ遺産資源を保存するために設定され、過去に伐採された形跡がなく世界遺産地域内の状態と同様な広葉樹林が広がっており原生林ならではの紅葉の美しい場所です。

9月7日（木）と8日（金）の二日間、当センターと津軽森林管理署は、鰯ヶ沢町内の小学校を対象に林業体験学習（森林教室）を実施しました。この森林教室は林業体験を通じ地元小学生が地域の産業である林業や白神山地世界遺産について理解を深める事を目的に西海小学校5年生、舞戸小学校4年生の児童に対し毎年実施しています。

両日とも天候に恵まれ、午前中は矢倉山国有林においてノコギリを使っての体験林業（下草刈り、枝打ち）と北限の天然



小学生の林業体験

スギを見学。午後からは、白神の森遊山道で職員の説明を受けながら散策を楽しみました。

森林での体験を通じて、林業のこと、自然環境の大切さや、森林と人との関わりを知ってもらいたいと願う森林教室を実施しています。

その他、鰯ヶ沢こども園の要請により「花いっぱい運動」やNPO法人、ボランティア団体等と連携協力した「白神山地周辺地域のクリーンアップ作戦」や「白神山地ビジターセンターふれあいデー」への協賛、ユネスコの育樹活動への支援・協力を行っています。

いずれも白神山地への理解を深め、森林に親しむ機会の提供や木材の利用促進などの普及啓発が行えたものと考えております。

### ○取り組みの積極的な情報発信

各種取り組みの前にはプレスリリースを積極的に発行と共に、広報誌「白神の絆」を毎月発行し、情報発信に努めています。

また、センターの活動状況をお知らせする、「活動展」を白神山地ビジターセンターや青森県総合社会教育センターで実施しております。

今年度も以下の会場で実施しています。

日時	1月26日（金）～2月25日（日） 午前9時～午後7時
場所	青森県総合社会教育センター 1階アートギャラリー [sha-sei] 青森県青森市荒川字藤戸119-7 TEL0177-739-1252
その他	入場無料

# 藤里森林生態系保全センター

当センターでは、白神山地世界遺産地域（秋田県側）4,344ha及び周辺地域の貴重な森林生態系の適切な保全と利用を図るため、遺産地域の巡視活動や二ホンジカ対策、森林環境教育等の活動に取り組んでいます。

## ○白神山地世界遺産地域の巡視活動

今年度の巡視活動は、雪解け後の5月中旬から降雪前までの11月中旬にかけて、岳岱、二ツ森、小岳、藤里駒ヶ岳等の入山者の多い箇所を中心に登山者への入山マナーの注意喚起、標識類の状況確認、樹木の損傷などの違法行為や高山植物の盗掘等の違法行為が行われていないかなどを巡視を行いました。

白神山地世界遺産地域連絡会議主催による合同パトロールについては、第1回目を7月22日（土）に入山者の多い二ツ森と小岳を予定していましたが、雨のため中止となったことから、第2回目の9月23日（土）に巡視員や県、八峰町、藤里町、環境省等総勢29名の参加を得、同コースを実施しました。二ツ森コース、小岳コース共に登山者へのマナーパンフレットの配布や盗掘等の禁止行為の確認、ゴミの回収を行いました。このように良好な状態で利用されているのも巡視員や関係機関の方々の日頃からの取り組みのおかげかと思えます。引き続き来年度もご協力の程よろしくお願いたします。



第2回合同パトロール（小岳コース）



第2回合同パトロール（二ツ森コース）

## ○白神山地世界遺産地域巡視員会議

6月3日（土）に、平成29年度第1回白神山地世界遺産



第1回巡視員会議

とし、協力依頼がありました。巡視員からは最近問題となっているイノシシやツキノワグマについての質問も多く出されていました。

12月16日（土）に、第2回目の巡視員会議が藤里町総合開発センターで開催され、巡視員、関係機関の総勢38名が参加し、今年度の事業実績の報告の他、増加している二ホンジカの目撃情報を共有しました。環境省からは二ホンジカの越冬調査や忍び猟、流し猟による試験捕獲を地元猟友会と1月～3月までの間に実施することを報告されました。



第2回巡視員会議  
「フィールドサイン講習会」

午後からは、環境省による二ホンジカフィールドサイン講習会を実施し、痕跡を探すための足跡の見分け方や、糞や食痕の判別方法などシカの侵入把握をすることについて共通認識を図りました。巡視員からも活発な質問が飛び交い、白神山地を二ホンジカから守る熱意と意気込みが伝わってきました。

## ○二ホンジカ対策

白神山地世界遺産地域及び周辺地域における二ホンジカ対策として、環境省と連携し134台（昨年度113台）の監視カメラを設置しました。その内、当センターは昨年より早い4月17日から秋田側に26台設置し、定期的にデー

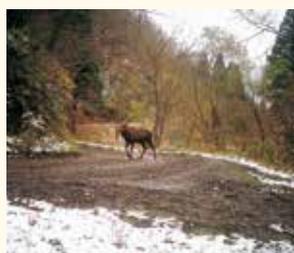
タの回収等を行いながら降雪前の11月19日まで25頭（昨年度10頭）の二ホンジカを撮影しました。

また、昨年より取り組んでいる小型囲いわな1台をシカの餌となる草が少ない春期と秋期、初冬までの年2回、昨年度にシカの撮影回数が多かった八峰町の小入川地区に設置し捕獲に向けた対策を行いました。

取り組みの結果については、ワナの直ぐそばでシカが撮影され捕獲まであと二歩かと思われましたが残念ながら捕獲には至りませんでした。今年度の反省を活かして、来年度も二ホンジカ対策に引き続き取り組んで参ります。



囲いわな設置初日の取材



八峰町小入川で撮影された二ホンジカ

## ○白神山地世界遺産地域周辺での自然観察会

自然観察会は一般の方を対象として「白神森林講座」を、公募により選定された一般社団法人 秋田白神コミュニティセンターとの共催で実施しました。

第1回・・・6月17日（土）「山女と登る世界遺産の山」と題して、小岳周辺の自然観察会

第2回・・・7月8日（土）「アジカメ・スマホで撮る風景写真講座」と題して、田代代温泉の二ツコウキスゲ等の自然観察と藤里駒ヶ岳の登山

第3回・・・10月14日（土）「神秘の山の天然杉と日本の杉」と題して、きみまち飯立自然公園の散策と秋田天然杉の七座山登山の計3回行われました。

これからも、より多くの方々に白神山地の多彩な魅力を伝えて参ります。



第1回講座



第2回講座



第3回講座

### ○森林環境教育等

6月1日(木)、7日(水)に藤里幼稚園年長児15名が、自然を感じ大切にしようとする心を育てることを目的として、「ぶなの森探検」を実施しました。

1日目は事前学習として白神山地世界遺産センターの展示施設を利用し、白神山地の四季の様子や動物や昆虫、岳岱の400年ブナ、山での安全教育について事前学習しました。



藤里幼稚園「ぶなの森探検」

2日目の岳岱自然観察教育の探検では、新緑のブナ林で「400年ブナ」を間近に観察しその大きさに驚いたり、モリアオガエルやクロサシヨウウオの卵を実際に触れ観察するなど五感をフルに使った学習は園児たちに印象深いものようでした。園児たちは最後に今日体験したことをお父さんやお母さんにも教えたいと話していました。



二ツ井高校「自然観察会」

6月23日(金)、秋田県立二ツ井高等学校1年生19名が、白神プロジェクト活動の一環としてスギのコンテナ苗とブナのポット苗の植樹と白神山地の自然観察会を実施しました。同プロジェクトは世界遺産白神山地の魅力を伝える

ことが出来る人材になることを目的に毎年実施しているもので、NPO法人 あきた白神の森倶楽部と一緒活動しているものです。当センターも二ツ井高校に協力し植樹指導や岳岱自然観察教育林で自然散策の案内役を行いました。

生徒は、この取組みを通じて地域の林業や森林の仕組み、世界遺産白神山地の魅力について理解を深めました。

8月31日(木)、獨協大学経済学部国際環境経済学科3年生21名が岳岱自然観察教育林でボランティア活動を実施し、当センター職員が現地指導しました。獨協大学ではエコツーリズムによる持続可能な地域づくりを学ぶため、昨年白神山地での合宿を藤里町で開催していま



獨協大学ボランティア活動(パワーあふれる学生たち)

す。今年はエコツーリズムだけではなく、ボランティア活動を行い白神山地の保全活動にも携わりたいとのこと、林内歩道へのウッドチップの散布と外来植物の除去を行いました。最後に学生から「白神山地で貴重な体験が出来ました」との感想をいただきました。

9月12日(火)、大館市立早口小学校5年生17名に森林環境教育の一環として森林教室を行いました。当日はあいにくの雨となり岳岱自然観察教育林での自然観察会が中止となったため、当センターの研修棟で白神山地世界遺産についての学習と、木工体験を行いました。午後から



早口小学校「森林教室」

から藤里町の名勝「峨羅の滝」を見学し森林が育む水の豊かさを肌で感じました。また、当センターの敷地内にある樹木を利用しブナの葉の特徴や樹幹流の様子など興味深く観察していました。

### ○地域との連携

6月11日(日)、「あきた白神まつり」が秋田県主催、

八峰町、藤里町、東北地方環境事務所、東北森林管理局他の協力で八峰町御所の台ふれあいパーク(あきた白神駅)で開催されました。当センターは里山のブナの森「留山」でトレッキングをサポートし、八峰町白神ガイドの会の案内でブナ林を散策しました。「留山」は藩政時代に地域の自然を守るための伐採を規制した山で、そのため樹齢300年以上のブナやミズナラの巨木が生い茂り手軽に世界遺産の森と同じ体験が出来る人気の高いスポットです。トレッキングは午前と午後の2回行われ、参加者からは、



あきた白神まつり「留山トレッキング」

「こんなに近場に良い山があることを初めて知った。とても気持ちよくトレッキングが出来た」と大好評でした。帰りには「みこしの滝浴び」やCMでも有名になった白瀑神社の滝を見学するお楽しみもあり、楽しい1日を過ごすことが出来ました。

10月28日(土)、29日(日)に藤里町民祭が藤里町民体育館で開催され、多くの町民が訪れました。当センターでは、活動写真パネルや二ホンジカ監視カメラで撮影された動物写真を展示するなど、当センターの取り組みを多くの町民の方に知っていただくことが出来ました。



藤里町民祭「リース作り」

また、木工教室では、リース作り、木工クラフト作り、木製名札作りを行い、家族連れを中心に多くの方に楽しんでいただくことが出来ました。特に今年初めて行ったリース作りでは、数量限定だったものの幅広い年代の女性を引きつけ体験していただくことが出来ました。

今年度の主な活動を紹介しましたが、今後も巡視活動や普及・啓発などにより白神山地世界遺産地域の適切な安全管理に努めるほか、白神山地の豊かな自然を多くの子供たちにも将来にわたって引き継いでもらえるよう、地域の方々と共に取組んで参ります。

# 美しい森林づくり

## 「一貫作業システム現地勉強会」 ～無地拵の事業地で コンテナ苗植付けを体験～

宮城北部森林管理署

平成 29 年 10 月 27 日、登米市東和町の国有林において宮城北部森林管理署主催の平成 29 年度「一貫作業システム現地勉強会」を開催しました。



一貫作業の事業地

森林施業の低コスト化に向けた取組については、昨年度に引き続き、伐採と植栽の一括発注による一貫作業を実施することとなりました。

今回も、この一貫作業による主伐・再造林を民有林等へ普及させる観点から、管内の県地方振興事務所及び各市町の林務関係者をはじめ、広く関係者の出席をお願いし勉強会を実施しました。

当日は、宮城県東部地方振興事務所、同気仙沼地方振興事務所、登米市、宮城北部流域森林・林業活性化センター、森林整備センター東北北海道整備局、南三陸森林組合、東和町森林組合、(株)大場林産、北星林業(株)、宮城十條林産(株)、(有)早稲谷・菅原苗木店、宮城県農林種苗農業協同組合、仙台森林管理署及び宮城北部森林管理署の 40 名が参加しました。

開会に当たり相澤肇署長は「低コスト化を進めるに当たり、様々な技術革新が取り入れられているが、林業・木材産業の発展のため国有林も民有林と手を取り合って、取り組んでいきたい」と挨拶しました。

当該事業地は、57 年生のアカマツを主とした人工林で、伐採面積は 1.25ha、スギコンテナ苗 (2,200 本/ha) を植栽することとしています。立木の伐採、搬出は完了し、前日から植付けを始めました。

今回は、現場の作業等の説明とコンテナ苗の植付けの実演のほか参加者によるコンテナ苗の植付けの体験を行いました。

一貫作業による低コスト化の主なポイントは、地拵の省略とコンテナ苗による植栽です。地拵を省略するためには、全木集材を行い、枝条を森林作業道沿いに集積することで可能となります。また、コンテナ苗を使えば、林内にある程度枝条が残っていても早く、効率良く植えることができます。

コンテナ苗植付けの実演では、無地拵の状態で請負事業体の東和町森林組合により実施し、効率的に行う様子を見て頂きました。



コンテナ苗植付け実演

今回の勉強会のテーマは、どの程度の枝条整理で良いのか、枝条残存の目安を覚えることと、無地拵の皆伐箇所に、いかに効率良く苗木を植えられるか、コンテナ苗を使って実感することです。

参加者にも専用器具又は唐鋤を使って、コンテナ苗の植付けを体験して頂きました。



参加者による植付け体験

参加者からは、コンテナ苗の植栽は「時間はかからなかった」「スピード感が違う」などの感想がありました。

また、改良する点はないかという質問に対し、現場代理人である東和町森林組合の遠藤圭氏から、「苗木の運搬は人力で行ったが、9、10月に伐採すれば機械が使える、人工数をかなり圧縮できた」等のコメントを頂きました。

最後に「今後も一貫作業をはじめとする技術開発に率先して取り組み、民有林へその成果等示してまいります」と結び閉会しました。

## 楓の仲間

—イタヤカエデ、ハウチワカエデ、ウリハダカエデ、ミツデカエデ、ヤマモミジ(カエデ科)—

盛岡森林管理署 森林技術指導官 松尾 亨

カエルの手に見立てて**カエデ**、赤ちゃんの手に例えた**モミジ**など、名の由来に遊び心がある楓の仲間は、春秋の美しさが古来から親しまれている種です。今回は特徴のある楓の話をしします。

**イタヤカエデ**は、25m程の高木で開葉前に黄緑色の花をつけます。葉は5~7裂に浅くさげカエル手を連想させます。変種にアカイタヤ、エゾイタヤが分類され、由来は葉の広がりや板屋根に見立てたこと。

**ハウチワカエデ**は、カエデ類で葉が一番大きく、拳状に浅く9~11裂し重鋸歯がある。樹高は15mほどで樹皮は赤灰色。由来は葉の形を鳥の羽で作った団扇に見立てたこと。

**ウリハダカエデ**は、緑色に黒や白の鹿の子模様があり樹高10mほど、葉は3裂し開葉と同時に

総状で黄緑色の花を付ける。由来は樹皮の模様をマクワウリに見立てたことから。

**ミツデカエデ**は、カエデ科で珍しい3出複葉で、赤い葉柄と卵形の小葉が特徴で、由来も葉が「三出」なことから。

**ヤマモミジ**は、樹高15m程で樹皮は灰色、葉は深く7~9裂し重鋸歯がある。分布は日本海側に多いが、東北では太平洋側に多い**オオモミジ**と混成しています。

モミジの由来の一説には「揉んで染め出す」の転化とも言われていますが、私としては愛らしさを感じる「カエルや赤ちゃんの手」説がしっくりします。衣を更に着るといわれる如月もあとわずか、草木が茂るいよおい(弥生)を樹木達も楽しみにしています!



イタヤカエデ



ハウチワカエデ



ミツデカエデ



ヤマモミジ



ウリハダカエデ

## 「ミス日本みどりの女神」が来局



平成30年1月15日に開催された「第50回ミス日本コンテスト」の最終選考において、2018ミス日本みどりの女神に選ばれた竹川智世さんが、1月25日、東北森林管理局を訪れました。

竹川さんは和歌山県出身で林間学校の間伐体験も経験するなど森と木に親しみながら育ったことから、小島孝文局長から説明された東北の森林の特徴について、真剣なまなざしで聞かれる様子が印象的でした。

ミス日本みどりの女神は、全国植樹祭や育樹祭などの式典への参加、緑の募金活動などを通じて日本の木の文化のすばらしさや森林や林業の大切さをわかりやすく発信し、みどりへの親しみを広める役割を担うことから、今後の活躍が期待されます。

新任者  
略歴紹介

1月11日付け

森林整備部長

こばやし しげよし  
小林 重善  
(秋田県)



平成元.4 農林水産省入省  
平成23.4 林野庁林政部木材産業課  
課長補佐  
平成26.4 北海道森林管理局上川南部  
森林管理署長  
平成28.4 関東森林管理局磐城  
森林管理署長

国有林モニター便り

現地見学会に参加して感じたこと  
～国有林モニターとして～

秋田県 長岐 耕三

私は普段山登りを趣味としています。貴重な国有林内を登山者として利用させていただいていることに感謝しています。



国有林モニターに就任し、二八年七月の現地見学会では、宮城県の荒砥沢治山工事施工後の現況を自分の目で確認できて、

地震による大規模な地すべりの恐ろしさを実感し、工事の重要性を再認識しました。地域の安全・安心を確保するため、今後とも関係者には治山事業を継続し、あわせて災害予防施策にも積極的に取り組んでほしいと思っています。

また、二八年十一月に秋田県の大仙市協和にある造林、刈払箇所及び間伐作業現場を見学した際は、刈払作業の必要性、難儀さを学ぶことができました。間伐作業では高性能林業機械を使用した作業を見学し、特に伐倒造材機のハーベスタ等による伐倒・枝払い・玉切り・集積作業が一貫して行われ、あっという間に処理される作業を見

て驚きました。その性能や省力化・安全性がとても高いと思います。ただ、私は機械作業による切株や枝の後始末がきちんと行われ、土砂災害等が起きないように願っています。

このほか、国有林モニター宛に毎月送付してもらっている林野庁及び東北森林管理局発行の冊子・資料等は、国有林野事業に関する知識の吸収や自分の人生を豊かにすることができるので大変役立っています。その資料の中で、東北森林管理局では伝統工芸品向け原料の持続的供給として「大館曲げわっぱ適材木選別に係る協定」に基づき、高齢級人工林秋田スギの適木選定の取組に協力していることを知りました。秋田県の大館市に住んでいる私は、ぜひとも積極的に推進していただきたいと思っています。

国有林が私たち国民の財産であると同時に宝ものであることを広く国民に知ってもらうためには、国有林モニター制度が有益なことはもちろんですが、私は、日本全国の子どもたちに温もりのある玩具製作用材として、国有林の間伐材を供給し、PRしてみてもどうかと思っています。森林の恵み、素晴らしき、植林・育林の大切さを知ってもらいきっかけになれば幸いです。

ちなみに秋田県能代市の新庁舎には、秋田杉がふんだんに使用されているようですので、近くに出向いた際にはぜひ見学したいと思っています。



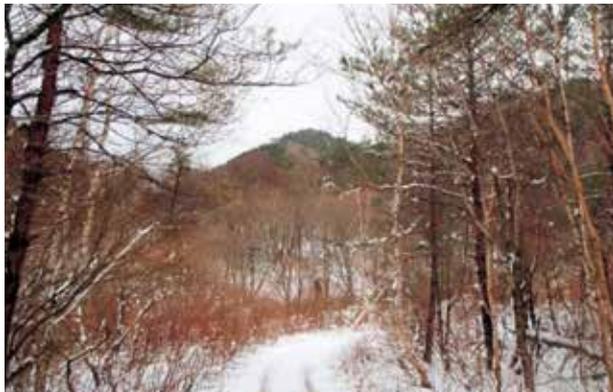
# 森林官からの手紙



## 管内の国有林の歴史と今後について

米代東部森林管理署 大湯森林事務所 森林官 鈴木 晃輔

管内にある不老倉林道の奥地には、明治末期から大正初期にかけて鉾山事業をした歴史があり、起点から10キロ程入った山奥にまで鉾山集落があったとされておりありますが、今では山林となっておりです。この当時の集落の方々は青森県三戸郡からの物資を標高611mの来満越えと呼ばれるルートを通じて運んでいたとさ



来満峠と集落跡地の風景

私が勤務する米代東部森林管理署大湯森林事務所は秋田県鹿角市十和田大湯に所在し、北側は十和田湖方面の県道2号線(十和田大館樹海ライン)沿いから、東側は青森県三戸郡、南側は鹿角市花輪柴内が隣接する国有林約7,700haを管轄しております。



奉安殿跡 (旧大湯小学校不老倉分校施設)

れ、人口は多いときで約6千人が住んでおり、鉾山労働者だけでも約3千人が働き、林道沿いの溪流近くには旅館や呉服屋など数々の店が軒を連ねていたとされておりです。また明治から昭和にかけて集落には小学校もあり大正の頃には児童が約6百人もいたとされ、今でも戦時中に御真影を安置する施設として使われていたとされる、奉安殿跡が見られます。私にはこの当時の集落の人々の生活はとても想像できませんが、きびしい山々に囲まれた環境の中で、鉾山発掘などを通じて、大湯周辺のみだけではなく鹿角地域や青森県の産業の発展に大きく貢献していたのではないかと感じます。近年の管内の状況としては、国有



成熟期に近い管内の森林

林及び周辺の民有林においても、多数の森林が成熟期を迎えているところであり、私が転勤してきた昨年度からでも国有林の立木公売で10物件が落札され、民有林においても伐採をしている箇所を多数見ます。また、来年度からは新たな地域管理経営計画のスタートということもあり、管内においても森林整備事業の増加が予想され、鹿角地域における、林業や木材産業の発展につながるのではないかと感じております。私も微力ではありますが、業務を通じて地域の産業に貢献できるように考え、自分にできることを努めていきたいと思っております。



案内掲示板



入口の山ノ神



佐比内ため池

# 我が署の名所

## 佐比内鉄鉱山遺跡

(遠野市上郷町)

岩手南部森林管理署遠野支署

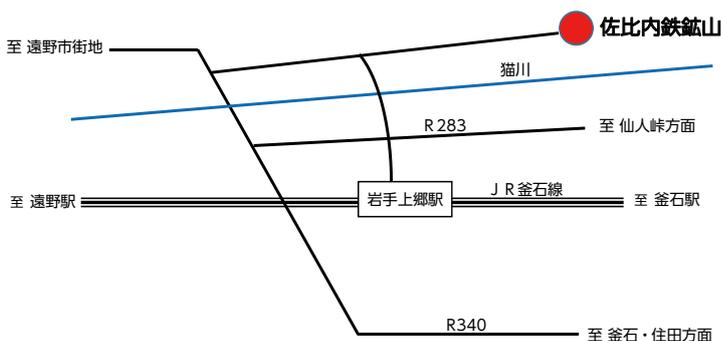
世界遺産に登録された橋野鉄鉱山(岩手県釜石市)の周囲には、同時期に作られた高炉が10基あったと言われており、遠野市上郷町の佐比内鉄鉱山もその中の一つで、水没しているものの高炉跡も残っており、現存する高炉跡は橋野と佐比内の2箇所となっています。

佐比内鉄鉱山の高炉は1860年(万延元年)に建設され、年間約37万5,000kgの銑鉄を製造していましたが、経営が困難になり1874年(明治7年)に閉山になりました。

その後は1931年(昭和6年)佐比内のため池が出来、長らくため池の底に水没していました。1978年(昭和53年)に発生した宮城県沖地震によりため池が被害を受け修復のため水が抜かれたときに発掘調査が行われ、佐比内鉄鉱山高炉が釜石市の橋野高炉に匹敵する高炉だったことが明らかにされました。

残念ながら現在も高炉跡はため池の湖底に水没していますが、水が引いているときは高炉跡の一部が見えるそうです。

また、平成26年には映画「蝸ノ記」のロケ地にもなりました。展望台もありますので、ため池の湖底を想像しながら一度眺めてみてはいかがでしょうか。



### 岩手南部森林管理署遠野支署

〒028-0515 岩手県遠野市東館町7-39  
TEL 0198-62-2670 FAX 0198-62-9628

### ◎交通アクセス

遠野駅から16km車で30分  
釜石道遠野ICから18km35分

